

## 韓国楊口郡(ヤング郡)の中学生が来町!

智頭町では、平成11年度から韓国楊口郡との国際交流事業を進めてきました。初年度の青少年交流では楊口郡中学生が楊口中学校との姉妹校縁組を行うとともに相互交流をとおして友好を深めました。近年、諸事情により交流活動が中断していましたが、今年から再開することになり、7月終わりに待望の楊口郡中学生10名が来町し、両国の中学生が交流を深めることができました。



歓迎晩餐会にて

### 楊口郡中学生の来町期間及びホームステイ期間の交流内容

【来町期間】7月28日(土)～7月31日(火)

【ホームステイ期間】

- 7月28日(土) 夕方・・・訪問団来町 智頭中学生の家庭にホームステイ
- 29日(日) 午前・・・智頭中学校にて生徒交流会
- 午後・・・ホームステイ先の生徒とともに旧山郷小校舎にて「合宿」
- 30日(月) の昼・・・ホームステイ先の生徒とともに石谷家住宅、鳥取市内観光
- 夜・・・町内農家にて民泊
- 31日(火) の朝・・・離町



楊口郡中学生による“ナンタ”

智頭中学生による組体操

1泊目は保護者のみなさんのご協力の下、ホームステイを行いました。また、本年度の交流ではようり中学生同士の交流を深めてもらおうと、2泊目は旧山郷小校舎を利用した「合宿」を実施しました。どが行われました。生徒のみなさんは、緊張気味ながら、次第に心が打ち解け合っていきました。



旧山郷小学校を活用しての“合宿”

## 部落問題の「いま」

明治時代に発布された、いわゆる「解放令」には、「被差別民衆も身分や職業共に平民と同様とする」と書いてあります。このときから制度上の身分や差別はなくなりました。

6月23日(土)、総合センターを会場に約110人が参加し「第34回部落解放智頭町女性研究集会」を開催しました。

静岡大学教育学部教授の黒川みどりさんを講師に迎え「部落問題のいま」～近現代の歴史を振り返りながら～と題し、「人権」という枠組みの中であざなりにいがちな「部落問題」を特に重点的に研究され、主に明治維新以降の部落問題の変遷について、当時の時代背景も視野に入れながらお話をされました。

しかし、社会的には被差別部落は残り、差別事象は今なお後を絶ちません。「身分」に変わった新たな「しるし」(貧困、不潔、病気、暴民、こわいなど)をつけて、被差別民衆を差別の眼差しで見ていました。その「しるし」は差別する側が「他者」に特徴を見出し差別のため作り出している。結婚時にそれは顕著にあらわれ、「家柄」「血筋」「人種」が違うということを理由に結婚を拒まれるケースが多くあります。この背景には「家」意識が根強く残っていることが挙げられます。

自分を磨いて自分より優れた人と並ぶのではなく、おしゃれ自分と同等かそれ以下に引き下げることで自分と平等化することがこの怨望の概念です。

そしてこの怨望こそ差別の元凶であるとまとめられました。



感想を話す参加者

・部落問題の歴史が改めて分かれます。

- ・部落問題の歴史が改めて分かってきました。
- ・とても歯切れの良い講演でよかったです。内容もわかりやすかったです。
- ・世代で違う部落問題意識を感じていたので納得しながら聞けました。
- ・差別はつくられたもの以外の何ものでもない。先生のお話は非常にわかりやすい内容でした。

(第1回)		9月27日(木)	午後7時頃
【講師】	鳥取市役所総務部人権政策監	タ一 主幹	川口寿弘さん
【講師】	元在日本大韓民国民団	金 泰鎮さん	
【講師】	鳥取地方本部事務局長		
(第2回)			
10月16日(火)	午後7時頃		
【講師】	元在日本大韓民国民団		
【講師】	鳥取地方本部事務局長		
(第3回)			
10月30日(火)	午後7時頃		
【講師】	鳥取環境大学 環境学部教授 外川正明さん		

\*講座内容等については智頭町ホームページ・告知端末などを改めてお知らせします。また、関係各機関及び昨年度参加者は後日案内を送ります。

### 人権・部落解放講座

智頭町では人権・同和教育の指導者及び推進者の養成を目的



黒川みどりさん

智頭町では人権・同和教育の指導者及び推進者の養成を目的

としてこの怨望こそ差別の元凶であるとまとめられました。

問い合わせ先

役場総務課

人権同和政策室 萩原・岸本

☎ 75-4115

問い合わせ先

役場教育課

☎ 75-3112